

某小学校雨漏り修繕工事

江田式漏水診断・江田式特許防水工法



1. 工事概要

・漏水診断

エダ式工法 「特許 1339367号」CO₂ガス圧入による検知システム

スラブ漏水跡クラック部分へ診断用ガス(CO₂送入装置)を設置し、同所からその水みちに対し雨水の侵透圧とされる0.06～0.15MPaの圧力でCO₂ガスを圧送した後、屋上で漏水の原因と推定さるる部位についてCO₂検知機(高感度ガス検知機)により測定した。

・漏水補修

コンクリートに発生したクラック及び

各種防水層の不具合に起因する漏水補修に用いる注入工法

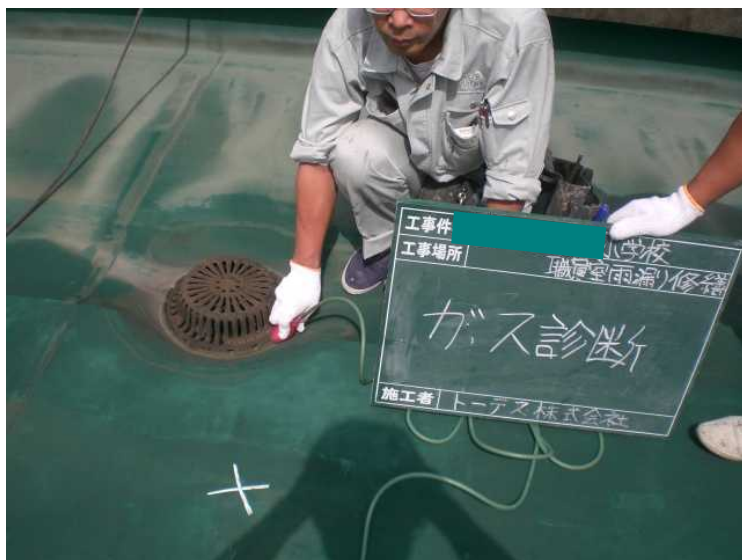
2. 漏水箇所



3. 漏水診断



ガス注入器



ガス診断中



ガス検知器

4. 漏水診断結果

検知箇所

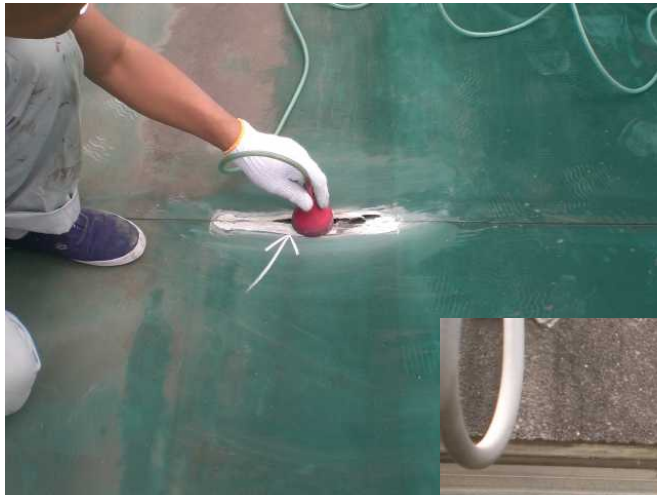
シート防水のジョイント不具合部分

シート防水の立上り端部コーナ一部分

シート防水の立上り端部コーキング劣化部分

シート防水の立上り端部コーキング劣化部分

パラペットのモルタルが欠損している箇所



5. 漏水補修



足踏み注入器



防水接着剤トマールE

一番ガス感知の勢いがあった箇所はガス感知箇所 のシート防水の不具合箇所でした、この部分は、屋上に降った雨水が、ドレンに流れる途中に位置するので、雨水が大量に防水層の下に入っていた箇所だと想像できます。

の箇所については、パラペットの顎の下であり、雨水が直にかかる箇所では無いので、直接の原因とは言い切れませんが、

パラペットのモルタル塗りが経年変化により、クラックが多数有りますので、そのクラックを通った雨水が、この箇所から防水層の下に入っていくことも考えられます。

についてはパラペットの顎の下ですが、他の場所と違いモルタル塗りの部分が欠損してしまい、顎下の水切り形状が無くなってしまっている為、他の箇所よりも防水層の下に雨水が入る可能性が高い箇所だと思われます。全体的にみて、シート防水層は不具合箇所を補修すればまだ大丈夫だと思われますが、顎下の防水層端部のコーキングについては、経年変化による劣化が進んでいるので、改修工事の時期だと思われます。パラペットの天端のモルタルにもクラックが多数有りますので、ウレタン防水や、クラック補修により改修する時期だと思えます。